

2019年度事業計画について

本法人は、2019年4月1日より、学校法人医療創生大学として、医療創生大学、千葉・柏リハビリテーション学院、岡山・建部医療福祉専門学校、葵会仙台看護専門学校、葵会柏看護専門学校を設置校として運営する学校法人となった。

新たな理事会の主たる責務は、合併後の各設置校の永続的な教学発展に資する管理運営のため、その資源となる基本財産を始めとする学校法人の財産を適正に管理し運用することであり、必要に応じて経営判断による的確な先行投資を行っていくことにある。

2019年度は、合併前に策定されていた学校法人いわき明星大学の経営改善計画、学校法人葵会学園における事業方針、事業計画等を踏まえ、新たな学校法人として発展するための事業計画を策定する。

法人

1. 新たな学校法人のあり方の検討

- ・看護学部の定員増の検討（千葉看護学部（仮称））
- ・新学部学科の設置検討（臨床心理学科の設置・開設準備（改修工事の実施、設備・備品・図書
の整備など））

2. 収支改善策の検討・策定

- ・補助金増加策の検討・実施
（私立大学等改革総合支援事業採択、及び競争的外部資金の積極的な獲得を目指す）
- ・経費の効率化の検討（部署間共有の検討、費用対効果の検証、光熱水費の削減など）
- ・法人業務の体制の確立（学校法人葵会学園との合併に伴う業務の見直し・効率化（会計システムの導入促進など））

大学

2019年度より薬学部・看護学部・健康医療科学部と学部構成を医療系へと転換し、大学名称を医療創生大学へ変更したことに伴い、本学の教育理念・目的を「科学的根拠（サイエンス）に基づいた術（アート）を備えた慈愛（ハート）のある医療人の創生」へと変更する。

新たに設定した教育理念・目的を達成するために、経営と教学が協働し収支均衡を図りながら大学改革を実施する。

1. 学生確保施策の検討・実施（医療系の大学に特化した募集活動と広報の実施）

- ・募集活動の検証と新たな施策の検討（医療系総合大学であることの周知徹底と募集エリアの
拡大）
- ・広報改革の検討（医療系に特化した広報を実施するための広報ツールの検討・実施）

2. 教育改革の実施

- ・私立大学等改革総合支援事業の採択を目指した教育活動の見直し
- ・教育効果の検証（学修行動調査、各種データの検証等）

3. 地域に立脚した教育・研究の推進

- ・地域連携協議会による高校、企業・団体、行政との連携強化等（福島浜通り復興創生キャンパス・コンソーシアムによる産・官・学の連携強化）
- ・市民の学び直しのニーズ把握と教育機会提供、大学教育への接続検討（生涯学習アカデミーの実施等）

4. 学生満足度の向上（学生支援体制の充実）

- ・離籍率減少へ向けた具体的施策の検討・実施（離籍データ検証等）
- ・奨学金制度の見直し（高等教育段階の負担軽減新制度への対応等）
- ・学友会活動等の課外活動活性化施策の検討（学友会再編等）
- ・就職率の向上と地場優良企業への就職者数の増加
- ・企業開拓の拡大による就職先・インターンシップ先の増大
- ・教職協働による就職支援体制の強化
- ・企業の採用ニーズの把握
- ・障害者学生支援の拡充（ユニバーサルデザインセンターの実質化）

専門学校

1. 専門学校

2019年4月に大学法人と合併し、専門学校の教育・研究における質の向上、多様な教育環境の提供、業務の合理化に向けたさまざまな施策を実施していく。

また、2019年4月には葵会仙台看護専門学校が設置する看護学科の入学定員が80人から120人に定員変更となる。専門学校4校の入学定員は360人から400人となり、多くの医療職業人を全国の葵会グループ病院施設に提供し、広く医療福祉の発展に寄与していく。

医療人の育成においては、2020年4月高等教育段階の負担軽減新制度施行に向け、適用機関申請を行い、低所得者世帯の者であっても、理学療法士・作業療法士・看護師国家資格を取得することで、社会で自立し、活躍できる人材育成を支援していく。

（1）認可等の申請

- ・2020年度理学療法士・作業療法士養成指定規則改定に伴う変更申請
- ・2020年度高等教育段階の負担軽減新制度の機関要件確認申請

（2）管理・運営

- ・専門学校4校の業務の共通化・効率化を図る。
- ・共通学科（看護学科）の学科運営の相互協力体制の整備
- ・第三者評価実施に向けた基準等の整備

(3) 財務・経営

- ・2020年度理学療法士・作業療法士養成指定規則改定に伴う教育機器備品の整備
- ・新経理システム導入による各専門学校予算の適正管理
- ・経費の効率化の検討・実施
- ・教職員配置基準の検討・実施

2. 専門学校別

(1) 千葉・柏リハビリテーション学院

2018年度入学者は、広報媒体掲載の遅れから理学療法学科・作業療法学科ともに定員を確保できなかったため、2019年度入学者の学生募集活動では、広報媒体掲載を早め、資料請求数が増え個別案内からオープンキャンパス参加者数を増やすことができたことにより、理学療法学科・作業療法学科ともに定員を確保することができた。しかしながら、専門学校としては毎年厳しい募集活動が続くものと考えられるため、2020年度入学者の学生募集活動においては、地道な高校訪問活動を柱とし、安定した高校ガイダンス参加依頼の獲得を目指す。

教育支援については、教育の質の向上とともに国家試験合格率の向上を図るべく、計画的かつ組織的な支援体制の構築を目指す。また、2020年度理学療法士・作業療法士養成指定規則改定に伴う変更申請準備を併せてすすめる。

就職支援については、求人数が700～800あるものの国家資格取得が大前提であるため、資格を得られなかった学生に対する卒業後教育支援の充実を図り、既卒者の国家試験合格率の向上を目指す。

(2) 岡山・建部医療福祉専門学校

2018年度入学者の定員確保から、2019年度入学者の学生募集活動に広がりを作ることができず苦戦した。そのため、2020年度入学者の学生募集活動については、学校の地域環境を考慮しても寮を活用とした県外高校生の確保をさらに進めるとともに、グループ専門学校を活用したサテライト入試の導入準備をすすめる。また、県内高校生の安定確保に努める。

教育支援については、2018年度の国家試験合格率の低下を踏まえ、国家試験対策を見直し、合格率向上に向けた効果的な対策を実施する。また、資格取得と関連する就職支援については、学校と隣接する葵会グループ施設協力の下、資格が得られなかった学生に、働きながら国家試験合格を目指す卒業後教育支援を実施し、既卒者の国家試験合格率の向上も図る。

(3) 葵会仙台看護専門学校

開校から順調に定員を確保し、3～4倍の志願者数を獲得していることから、2019年4月入学定員を80人から120人に変更することとし学生募集活動を行い、定員を確保した。2020年度入学者の学生募集活動も引続き安定した志願者数の確保に努める。

2020年度は、第1期生の卒業年度となる。そのため、学生募集活動に多大な影響を与える国家試験合格率は、教育支援においても、教育の質の高さを示すものでもあるため、国家試験受験者全員の合格に向けた対策を引続きすすめる。さらに、就職支援においても資格取得と関連することとなるため、国家試験に向けた教育支援に万全を期す。

(4) 葵会柏看護専門学校

第2期生となる2019年度入学者は、定員を確保したものの、想定した社会人志願者数を確保することができず、総志願者数が昨年度を下回る結果となったが、高校新卒志願者・入学者を増加させる目標については達成した。そのため、2020年度入学者の学生募集活動では、社会人入試志願者数の増加、高校新卒志願者数のさらなる増加による定員の確保を目標として、入試区分・入試科目・入試時期の見直しを図り、併せてオープンキャンパス日程・内容、講座の設定・内容を一新する。また、埼玉・東京方面の学校訪問地域、ガイダンス参加地域をさらに広げる。

教育支援においては、入学手続き完了から入学前まで実施する入学前教育の学修内容の再検討と同時に、入学後引続き1年間実施するための基礎学力向上のための学修内容および実施方法を検討・実施する。また、学生個別の学修到達状況を把握・対策の検討・実施・管理を徹底し、出席不良・留年・学業不振退学の防止策の強化と国家試験対策を計画的・効果的に実施していく。

以上